

2022年度（令和4年度） 学校法人ゴスペル学園ゴスペル幼稚園

学校評価

〒901-0361 沖縄県糸満市字糸満 1693-2

TEL 098-994-2145 FAX 098-994-2566

報告者 理事長 山内友子

作成日 2023年3月20日

2022年度は本学が学校法人に移行して10年目の年になります。学校法人化後10年を終えようとする中、日々の幼稚園生活がさらにより良いものとなるよう、今年度を振り返り自園の運営や活動を顧み、このように教職員による自己評価を実施いたしました。下記の学校評価を踏まえ、本園の更なる教育活動と教育環境整備の充実、そして教職員の資質向上に努めます。

<2022年度（令和4年度）の総括>

過去3年間の「コロナ禍」が継続しており、依然として幼稚園活動や園行事の参加人数などに制限もありましたが、過去3年間のような「特別保育」など計画的な臨時休園等がない1年間となりました。もちろん、園内での感染症対策は行いつつも、園児のマスク着用を求めないなど、「コロナ禍」ではありましたが、コロナと共存の園生活が主になったように振り返ります。幼稚園としては園生活を継続していく中で、保護者の方々のご理解とご協力も大きな支えとなりました。運動会、クリスマス祝会、発表会も延期等はありませんでしたが、在園児については実施できた行事はフルスケールに近い形で実施することができました。

お誕生会などは引き続き過去3年間同様に分散形式での開催となり、卒園児や地域の方にも参加して頂いてきた本園恒例の「ゴスペルバザー」などは実施を見送るという形になりましたが、集団での学びや経験がこれまで以上に継続できていると実感する毎日でした。園内外でコロナの感染拡大に対峙する時期も一定期間ありましたが、年度を通して充実した幼稚園生活を送ることができたと考えております。

2021年度と同様、ご家庭のご理解もいただきながら、発熱や呼吸器症状などの風邪症状がある園児や教職員の厳格かつ迅速な登園・出勤自粛の徹底を継続しました。幼稚園ではできる限りの感染症対策を講じつつ、園児達の学びの保障を継続していけるよう努力いたしました。

父母の会(PTA)役員の皆様や各ご家庭からも多くのご協力を頂き、今年度を締めくくることができ、大きな感謝を覚えております。引き続き、幼児期にとって大切な幼稚園の日々が守れるよう、気を引き締めて幼稚園生活を進めていく所存です。

《 教育目標 》

『子どもたちひとりひとりが幼児期を精一杯生きることができる環境を』
「聞くこと」・「考えること」・「伝えること」が幼児教育の中で特に大切な事であると捉え、以下の保育方針をもって保育に携わっていきたいと考えています。

《 保育方針 》

『良心を持って判断し、豊かな感受性を備える』
園児たちが体験を通して知識と教養を高め、豊かな心を培い健やかに自律の精神を養い、それぞれの個性を大切に捉える教育をします。

① キリスト教保育

神の愛を感じ、人を愛することを目標とした保育

キリスト教保育とは、神の前での良心教育をその生命線としており、このことを踏まえて「本当に大切なことは何か」を園児と共に考えていきます。園児一人ひとりに寄り添い、園児一人ひとりが神と人ともに愛されている存在であることを実感できる幼稚園を目指します。

② 自由保育

自由で温かい家庭的な環境での保育

それぞれの個性を尊重し、伸び伸びと自己表現ができるよう、日々の様々な活動を通して園児達の発達を支えます。集団生活の中でのルールを学びながら、大切な幼児期に大好きなお友達や先生達とたくさん遊び込むことに重点を置いています。

③ 知識を経験として学ぶ保育

伝えること・考えること・善し悪しの判断ができる

他者と関わることにより、他者を理解し、つながりを大切にする。自然に触れ、知ることで園児の創造力と感受性が高まることを目指します。

1. 2022年度の重点目標・評価項目

- ① 本園の教育目標・保育方針の理解、その実践と達成ができるよう全職員が努める。
 1. 下記の場面を中心に、園の方針や共通理解を促進する。
 - (ア) 年次ミーティング（年に一度）
 1. 可能な限り、各学期で目標と課題を共有する場を設ける
 - (イ) 教師会（月に一度）※学期はじめの教師会は園運営を中心に
 - (ウ) 聖句を考える会
 1. 「聖句を考える会」を月に一度の教師会に組み込む形で、本園の建学の精神にのっとり、キリスト教保育を実践していく時に大切な心構え、予備知識など学ぶ機会を設ける。今年度設定している月毎の「聖句」に沿って、キリスト教保育を皆で考える機会にすることを目指している。
 - (エ) 日々のミーティング（一日に二回、朝と午後）※必要に応じて
 2. 上記の話し合いの機会を通して、園の方針をしっかりと各教師が理解したうえで、日々の保育や職務に従事することを改めて確認する。
- ② 園児一人ひとりに対し、全教職員（クラス担任から事務員まで）が個々人の成長と幼児期に相応しい育ちが保障されるよう必要な情報の共有を図り、園児に最適な環境を提供できるよう日々の課題に共に向き合う。
 1. 毎日の朝と午後の教師間ミーティングを情報共有の場として活用する。
 2. 現時点で対象児童が課題としていることを共有し、教員として具体的に支える方策を確認する。
 3. 必要に応じて、関りが深い教師や当該園児の保護者とも面談を行い、幼稚園と家庭、また市の保健師や心理士、支援施設等の関係機関と連携して成長過程を共に支える。
- ③ 幼児教育の質の向上を目指し、加盟する研究機関などを通して県内外の研修・講演会等に積極的に参加し、園児との関わりや指導、園運営に役立てる。
 1. 本園では遠隔（リモート）やハイブリットでの研修参加を積極的に推進していき、可能な限り教師の学びの継続と教育の質向上を意識する。
 2. 各教員のシフトに配慮して希望する研修に参加できるよう配慮する。
- ④ 食育の一環として、園庭や屋上で野菜や果物の栽培を行う。園児自身で育てた野菜や果物をみんなで調理、また食するまでの過程について、観察などを通して学び、成長の喜びを感じ取ることを目的とする。※新型コロナ対策として、リスクを伴うと判断される食育活動は教師を中心に行い、感染予防を常に意識して食育活動を実施する。
 1. 新型コロナの流行状況に留意しつつ、できる限り園児達にとって大切な植

物（野菜や果物）の成長や管理を体験できる食育活動推進をしていく。

2. 各クラスでも、絵本や図鑑を用い、育てているものやその成長過程を園児自身が意識できるように学びとしての導入も意識して食育活動を行うよう努める。植物の毎日の成長過程を可視化することで、生物に対する興味・関心を深めていく。
- ⑤ 安全対策として原則毎月1回、防犯・火災・地震等の訓練を実施する。年に2回は消防署と連携（訓練の事前通告を含む）して、緊急時を強く意識した訓練を行う。
1. 教師間でも役割を再確認し、それぞれの訓練で担当となる職員を定めて、教職員の連携を図るとともに、万一への備えを全教職員が日頃より意識するよう努める。
 2. 避難訓練などは、避難に要する移動時間も計測しつつ、想定できる範囲で実際の避難行動を意識して行う。年度内で同じ訓練を二回行うことができるときな、前回からの反省等を踏まえて、改善できる点を事前に協議して安全対策の向上に努める。

2. 重点目標・評価項目の達成及び取組状況

評価項目① 園の基本方針と実践

（達成）ゴスペル幼稚園全教職員が園の方針・各クラスやグループの保育内容・目標を把握して共通理解に努めた。中核をなす教職員中心に、幼稚園としての方向性をしっかりと共有できている。

（取組状況）年次ミーティングに加え、各学期における全体ミーティングも実施した。各月の教師会についても、事前に準備をしてフルタイム職員を中心に毎月開催できた。今年度も「聖句を考える会」を月に一度のペースでは実施し、毎月の聖句に沿って園内でキリスト教保育を考える時間を設けることができた。これまでも続けている日々の教師間ミーティング（朝と午後）も定着し、その場にはいない教職員のための記録の作成なども継続して行った。

学期ごと、毎月、そして日々のミーティングにおいて、目標としている園の方針を理解し、その実践を目的として話し合う時間が設けられていることが、教職員に浸透していると感じる。日々の保育活動や行事の準備など、日々の業務もこなしつつ、これからも教職員間で園の方針や共通課題を皆で理解できるよう努めていきたい。

評価項目② 園児一人ひとりに対するの育ちの保障と情報共有

（達成）上記の評価項目①にもあるように、毎日の朝と午後のミーティングでも、対象児童の課題や困りごとをできるだけ共有できるように努めた。毎月の教師会では、時間をかけてより深く園児の育ちの保障と当該園児にとっての最適な環境

を考えることに注力した。

(取組状況) 担任ではない教師も、対象園児の課題等を共有することが大切だと感じると同時に、チーム保育を推進していくことの重要性を感じることができている。発達過程のサポートに重点を置いて、市の保健師や心理士、支援施設等との連携もこれまで以上に数が多くなってきているので、関係機関とも引き続き連携を大切にして、園児一人ひとりに合わせた環境構成、触れ合いを考えていきたい。

評価項目③ 教師としての資質や能力・良識・適性

(達成) 本園が加盟する沖縄県私立幼稚園連合会(県内・県外)、キリスト教保育連盟(県内・県外)主催の研修会・講習会に積極的に参加した。コロナ禍の影響でWEB(またはハイブリット)研修も多く、園としても各教職員に研修参加できるようシフト等で配慮した。

(取組状況) 研修の事前周知も継続し、園からも必要な研修にはできる限り参加するようシフト等を調整した。研修に参加した教職員には、研修報告書(文章による概要説明と個人の振り返り・展開)を2週間以内に提出させた(キャリアアップ研修については、研修報告書の代わりに修了証を園に提出させた)。研修内容の報告を通して、参加できなかった教諭にもその研修内容を周知し、教員としての資質向上に努めた。

2022年度の主な研修参加は下記の通りです。

＜2022年度参加研修一覧＞(対面、ハイブリット、zoom)

※下記は沖縄県私立幼稚園連合会、キリスト教保育連盟のみ記載

- 沖縄県私立幼稚園連合会
 - ◆ 第31回教師研修会(2022年6月)(zoom6名、対面1名参加)
 - ◆ 主任教諭等研修会(2023年1月)(zoom3名、対面2名参加)
 - ◆ 設置者・園長研修会(2023年2月)(対面1名参加)
- 全日本私立幼稚園連合会、九州地区会、幼児教育研究機構
 - ◆ 九州地区会 第38回設置者・園長研修大会 沖縄大会(2022年6月)
 - 2日間、対面1名参加
 - ◆ 九州地区会 第38回教師研修大会宮崎大会(2022年8月)
 - 2日間、zoom研修(2名参加)
 - ◆ 全国大会 第37回設置者・園長全国研修(長崎大会)(2022年10月)
 - 2日間、対面1名参加
- キリスト教保育連盟(沖縄部会)
 - ◆ 年次総会、礼拝、60周年プレ大会(2022年5月)(対面3名参加)
 - ◆ 夏の研修会(2022年8月)(対面3名参加)
 - ◆ 第93回夏期講習会(キリスト教保育連盟本部主催)(zoom2名参加)

- ◆ 秋の研修会（2022年11月）（対面3名参加）
- ◆ 園長・主任会（2023年1月）（対面1名参加）

評価項目④ 食育活動の推進

（達成） 食育の取り組みにおいては、これまで以上に園内施設（園庭の周辺や屋上）を工夫して使用し、野菜や果物の栽培を行った（新型コロナウイルスの感染症対策として、調理する際は教師が中心に行った）。園児が自ら食べ物を最初から植える・育てることを実施し、野菜や果物の成長過程について喜びをもって学び、継続して考えることができた。また、草花にもたくさんの種類があることを学びつつ、成長と共に色や形が変化する過程を毎日の水やりの際など興味をもって観察することができた。

（取組状況）今年度は、絵本などで食育を学ぶ導入の部分から、その後に実際の植物の成長過程についての繋がりを意識できた。各クラスでも月間絵本などを通して植物の成長過程を考えることにより、園児達の日々の水やりや観察にも成長の繋がりをを感じる機会になった。園としては、本園が実施するキリスト教的行事でもある「花の日こどもの日礼拝」や「収穫感謝礼拝」などで、礼拝の際に実際に育てた食べ物の成長を感謝し、自分たちで育てる喜びを感じることを意識した。草花の栽培活動においても、自ら育てることによって、花や植物を大切にすることを育むことを狙いとして、継続して植物を育てている環境の提供を意識した。今後も食育・栽培活動の幅を広げるために、成長過程に焦点をあてつつ、園児たちの学びが広がり「植物の命」を感じるができる環境整備を進めていくことを教職員間で確認した。

評価項目⑤ 幼稚園における安全対策

（達成） 安全対策として毎月、防犯・火災・地震・避難等の訓練を実施できた（安全や訓練に対する講話を含む）。訓練の前後（導入や振り返り）に、教師から園児向けの注意点や反省・課題のお話も行った。年度内に2回の消防署と連携（訓練の事前通告を含む）を実施した。消防署との連携時には、実際に職員室から消防署に連絡した。

（取組状況）火災訓練では、出火元を訓練毎に違う場所を想定し、各訓練で臨機応変・迅速に対応できているか確認した。園児と一緒に「命を守る行動」ができるよう、心がけるよう意識した。地震後の津波を想定した訓練も、避難指定場所の近くの小学校への避難訓練を例年通り実施できた。避難時（地震・津波訓練）の時間も昨年度に引き続き複数回にわたり計測し、設定目標の時間と照合しつつ避難意識を高めている。迅速に緊張感をもって避難しつつ、横断歩道を渡る際など園児の完全確保を職員間で何度も確認し、実際の避難ルートで訓練を実施した。

防犯訓練では、不審者対応・対策を教職員間で共有し、園内の複数箇所に設置さ

れている防犯カメラを職員が随時確認する等、部外者の園内への出入りを必ず確認するよう心掛けています。教職員には、防犯カメラの位置とカメラが毎日稼働しているかの確認を義務付けています。

以上